

第215回 上級 原価計算 ①

問題 1

問 1 [⑧ 67,500] 円

問 2 [⑧ 60] 単位

問 3

	第 1 工程	第 2 工程
月末仕掛品原価	⑤ 11,440,000 円	17,730,000 円
当月完成品原価	40,120,000 円	⑤ 48,600,000 円

問 4 不利差異の場合には、数値の前に△をつけること

	価格差異	数量差異
X材料費	△ 784,000 円	④ 200,000 円
Y材料費	④ 175,800 円	△ 192,000 円
Z部品費	△ 16,420 円	④ △ 6,300 円

問 5 不利差異の場合には、数値の前に△をつけること

(単位：円)

	変動加工費差異		固定加工費差異	
	予算差異	能率差異	予算差異	操業度差異
第 1 工程加工費	③ △ 12,000	△ 96,000	③ 238,000	△ 180,000
第 2 工程加工費	83,000	③ 64,000	323,000	③ 0

問 6

異常な状態に基づく原価差異は、非原価項目として処理する。正常な状態に基づく原価差異は、

材料受入価格差異を除き、原則として当年度の売上原価に賦課する。材料受入価格差異は、

当年度の材料の払出高と期末在高に配賦する。比較的多額である原価差異は当年度の売上原価と

期末たな卸資産に配賦する。

⑩

第215回 上級 原価計算 ②

問題2 金額の単位は円である

問1

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
①	材 料	8,200,000	本 社	8,200,000	⑤
②	賃 金 ・ 給 料	5,100,000	本 社	5,100,000	⑤
③	本 社	31,200,000	本 社 へ 売 上	31,200,000	⑤
④	月 次 損 益	21,800,000	製 品	21,800,000	⑤

問2

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
⑤	月 次 損 益	3,720,000	本 社	3,720,000	⑤

問3 [24,520,000] 円 (借方 貸方) カッコ内のいずれかに○をつけること ⑤

問4

工場を独立した計算単位として評価し、分権化を促進するため。 ⑤

問5

原価責任しかない工場長に利益責任を持たせることによって、積極的に利益を高めたいという意識を持たせるため。 ⑤

○数字は予想配点

第215回 上級 管理会計 ①

問題1

問1

単位当たりの予算貢献利益

製品A [③ 800] 円 製品B [③ 2,400] 円

問2

売上高に関する予算・実績差異

製品A [③ 16,172,100] 円 (不利) 製品B [③ 30,432,000] 円 (有利)

※ 有利・不利も一致して正解 (以下同じ)

問3

価格差異

製品A [③ 1,012,100] 円 (不利) 製品B [③ 6,048,000] 円 (不利)

数量差異

製品A [③ 15,160,000] 円 (不利) 製品B [③ 36,480,000] 円 (有利)

問4

市場占有率差異

製品A [③ 13,960,000] 円 (不利) 製品B [③ 11,520,000] 円 (不利)

市場総需要量差異

製品A [③ 1,200,000] 円 (不利) 製品B [③ 48,000,000] 円 (有利)

問5

ア (② 有利) イ (② 製品B) ウ (② 市場総需要量)

問6

貢献利益に関する予算・実績差異

製品A [③ 2,019,900] 円 (不利) 製品B [③ 1,977,600] 円 (有利)

問7

貢献利益差異

製品A [③ 1,012,100] 円 (有利) 製品B [③ 12,614,400] 円 (不利)

問8

(② 事前統制) (② 期中統制) (② 事後統制)

第215回 上級 管理会計 ②

問題2

問1

[⑤ 9] %

問2

第1年度 [0.917] 第2年度 [0.842]
第3年度 [0.772] 第4年度 [0.708]

すべて正解で⑤

問3

[⑤ Δ 30,000,000] 円

問4

税金の影響を考慮しない場合 [④ 14,000,000] 円
税金の影響を考慮する場合 [④ 14,300,000] 円

問5

採用すべきである (○) ③
採用すべきでない () いずれかに○

理由：新設備に取り替えることにより、正味現在価値が12,820,900円増加するため。 ⑥

問題3

ア (② 環 境) イ (② 物 量 セ ン タ ー)
ウ (② 製 品) エ (② 廃 棄 物)

○数字は予想配点